



坂東会

坂東会
100
周年
2021



二代目 坂東三津江 (個人蔵)

知っておこう！坂東流

第5回「坂東三津江」三代目の芸を継ぐお狂言師

二代目坂東三津江は、三代目三津五郎のお弟子であつた初代三津江の娘で、文政4年の生まれ。明治維新を経て99歳という長寿をまっとうし、三代目から引き継いだ『娘道成寺』を七代目三津五郎にうつすなど、江戸時代から続く坂東流の流れを途絶えることなく後世に伝えたのが三津江だと言っても過言ではないでしょう。

ご存知の通りお狂言師とは、江戸城や大名家に御殿女中として召抱えられ、男子禁制の大奥において踊りや歌舞伎を演じたり、教えたりした女師匠・芸人のことです。三津江は加賀藩お抱えのお狂言師であり、明治維新後は小石川・伝通院の前に住み、

踊りの師匠として町家の娘達にも稽古をしていました。三津江の孫弟子にあたるのが三津栄、三津美などのお師匠さんです。また七代目が初めて三津江に会ったのは三津江84、85歳の頃で、『娘道成寺』は稽古場の襖を立て切って自ら踊り、振りうつしをしたそうです。

三津江所蔵の衣裳や歌舞伎の台本は、国立東京博物館と早稲田大学演劇博物館に寄贈されています。衣裳はいわば「大奥主催の興行」で使用された実に豪華なものです。また芝居の台本からは、お狂言師が歌舞伎の世界にも通じていたことを物語っています。

参考資料「父三津五郎(坂東三津五郎(八代目)著)

図録「三代目坂東三津五郎展」早稲田大学演劇博物館発行
「七世坂東三津五郎 舞踊藝話」利倉幸著

目次

家元あいさつ・家元情報	2 ~ 3
杉先生の思い出	4
三津加先生を偲んで	5
ゆかた会のご報告	6 ~ 7
後見のお話しのご報告	8
台詞研修会開催のお知らせ	9
伝承・坂東流	10 ~ 11
青年部活動報告	12
歳末チャリティー番組	13



ご報告

家元 坂東巳之助

平成30年9月20日、長男・緒兜（おと）が誕生致しました。

お産は19日の夜から20日の明け方まで続きましたが、母子共に健康でございました。

今は日々成長していく姿を楽しく、微笑ましく見守っております。

将来役者や踊りの道に進むかどうかは、時が来たら本人の意志に任せるつもりでおりますが、少しでも芸事を楽しみと感じられるように育てたいと思っております。

皆さま方におかれましても、何卒温かい目を持ってお見守り下さいますようお願い申し上げます。

坂東巳之助さん

可愛い男のお子さん ご誕生とのこと、心からお祝い申し上げます。

これにて、坂東流は次なる世代までも安泰となりましたね。

坂東会の会員の皆さんもござって

「あら、素敵じゃない？」

と言って喜んでいらっしゃるのではないでしょうか。

何はともあれ、万々歳！おめでとうございます。坊やがお健やかに成長されることを、心から祈っています。

そして、一日も早く、坊やがよちよち歩きしながらも、お父さんの巳之助さんと一緒に踊られる初舞台の微笑ましい光景が見られるのを心待ちにしています。

平成30年9月27日

坂東会顧問

弁護士 清水 直



平成30年9月20日(木)

家元ご夫婦に、元気な男のお子様が生誕しました。健やかなご成長をお祈り申し上げます。

初座頭興行 NARUTOーナルトー

多くのメディアに取り上げられ前評判高く初日を迎えた新作歌舞伎「NARUTO」来年6月は京都南座へ!!

小学生の弟子と鑑賞して

坂東友女香寿

家元が座頭を勤められる「NARUTO」を観劇できる8月を楽しみにしておりました。「NARUTO」は、ワンピースと同じく、子供から大人まで広範囲のファンを持つ劇画です。あたりを見回しますと、やはり思い思いのおしゃれをした様々な世代の方が多いことに圧倒されました。私も72巻もある「NARUTO」を、どのようにまとめて、観客を惹き付けるのか、たいへん楽しみにしておりました。小学3年生の弟子は「連獅子の解説(歌舞伎鑑賞教室)」をされた人と、同じ人と思えない」と興奮していました。「NARUTO」は、古典の高度な技巧と新しい感性をマッチさせた舞台で、楽しいひと時を過ごすことができました。家元はご自身の魅力を遺憾なく発揮され、若い世代の心もつかまれたことと思います。坂東流に携わるものとして、幅広いファン層を作り上げられた

家元に感謝申し上げます。公私ともども充実され、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

新作歌舞伎『NARUTOナルト』を観劇して

坂東章太郎

国内外に多くのファンを持つ人気少年漫画が題材と知り、また知人の方々の「どのような舞台になるのかしら?」との話もあり、期待を胸に劇場へ向いました。

開場前の入り口付近では、小学生そして長年愛読されていらしたと思われる20代、40代の若い方々、幅広い年齢層の方で賑わっていました。もちろん客席は三階まで満席でした。

幕が上がリ、歌舞伎と現代演劇との融合で次々と展開していく場面に舞台から目が離せません。耳も同様で古典と現代曲との心地よい音楽の流れに何かとても不思議な想いを感じさせられました。

主役のナルトの役柄が家元にピッタリで自然体。驚嘆しましたのは身の軽さ。きつと身体作りにもたくさんのお時間をかけられ、努力なされたのではないでしょうか。私はお舞台からエネルギーを頂きました。

幕が下り、拍手鳴り止まず。カーテンコール：再度拍手鳴り止まず!言葉

では表すことができない感情・感激を頂きました。そして目には熱いものが、背筋にゾクゾクと。連れ立った方々も同じ想いでした。素晴らしいお舞台を拝見させていただきました。ありがとうございます。

歌舞伎鑑賞教室『連獅子』解説「歌舞伎のみかた」を堪能して

坂東三裕起

凄い夏でした。その猛暑をもものともせず、家元演じる「ナルト」に圧倒されました。

圧倒されたといえば、「国立劇場六月歌舞伎鑑賞教室」での家元の「歌舞伎のみかた」の解説です。

開演まもなく私は家元の話に引きずり込まれていました。

客席を取り込んだ説明、観客全員が体験したかの如く満足させる構成、演出に底知れぬ力と、大きなふくらみを感じ、嬉しく『おそれいりました』の夏でございました。

家元情報

吉例顔見世大歌舞伎(歌舞伎座)

平成30年11月2日(金)〜26日(月)

新春浅草歌舞伎

平成31年1月2日(水)〜26日(土)

京都四條南座 六月

新作歌舞伎

NARUTOーナルトー

杉先生の想い出

今年2月7日に亡くなられた杉先生を偲んで、ご親交の深かったお二人に想い出を寄せていただきました。

杉先生とお会いしたのは、私が東京へ出て来た六十年ほど前のことになりました。

杉先生が先代の吾妻徳穂先生、先々の松緑さんと仲良くしていたときにお目にかかったが初めてです。八代目と杉先生は、とても仲が良く、私と三人でよく、青山のお家元のお宅で、踊りの話をしていました。

八代目の「木の実会」、九代目の「湊の会」、九代目、十代目の「登舞の会」の演出も手掛けられました。

平成21年追善舞踊会で再演となった『烏鷺の曲』も、初演は「木の実会」。あの時は、百次さん、三津風さん、寿吉さん、希延治さん、栄鳳さん、菊輔さん、仙寿郎さん、弘三郎さん、三信之輔さん、寛二郎さん（順不同）私も参加して、十五名くらい。男性が鳥、女性が鷺の舞台でした。

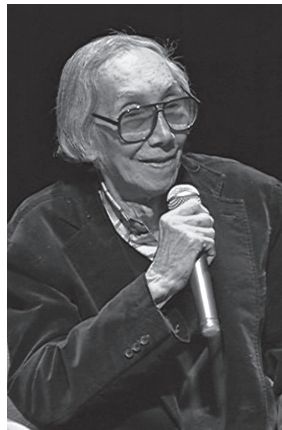
作詞は他にも『浪花土産』『狸八島』『さくら』を坂東流に残して下さいました。

平成28年には、聞き手に、寿子さんと私で、「知っておこう！坂東流」と

いう講演会をしました。七代目の想い出や、坂東流の踊りの特徴などをお話してくださいましたね。

ある日、お茶を飲んでいたときに、「君たちが責任をもつて事を運んでいかないと、坂東流は無くなってしまうよ」と、おっしゃっていたのが記憶に残っています。

坂東三津二郎



平成28年講習会での杉先生

杉先生との出会いは、私が十代の頃、「学校巡回」（後に長唄協会主催）のお手伝いをしたときです。杉先生が集められた、三味線、鳴り物、などの若き一流の方々の演奏で、人形劇や『越後獅子』の琴の演奏などを小学校を廻って観せていました。

杉先生のわかりやすく、楽しい解説で、生徒さんたちも興味深く、楽しめたことと思います。

八代目がお亡くなりになって、私が青山のお宅に伺うようになった頃には、月に何度も、九代目とお話をされにいらしていました。朝までになるこ

とも珍しくありませんでした。お酒でなく、お茶を飲みながら、朝まで。お話は尽きませんでした。

ときには、お台所に顔を出されて、すりこぎの動かし方から、クワイの包丁の入れ方、等々、教えてくださることもありました。

広い知識をお持ちで、何を伺っても、答えがいただける。九代目、十代目もどれだけ心強かったことかと思えます。坂東流にはかけがえのない方でした。

「常に一流をご覧下さい」

舞踊だけでなく、絵画、書、音楽、何でも、一流を、と。

心にずっと残っている言葉です。

坂東愛

坂東会会報にも沢山寄稿していただいた杉先生。その最後は、125号（平成28年5月号）の「流祖より脈々と流れる坂東流の芸」という記事でした。結びは「以下は、またの機会に…」

私たちは、今一度、杉先生の残された物を読み返し、先生が太鼓判を押された、坂東流の芸を知り、どう受け継いで行くのかを考え、行動することが、杉先生へのご恩に報いることと考えます。

杉先生、長い間、ありがとうございました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

三津加先生を偲んで

小雨降る7月初旬、平成29年11月7日に96歳で亡くなられた三津加先生のお稽古場を訪問し、五十鈴さんにお話を伺いました。



お稽古場 玄関

―祐天寺のお稽古はどんな様子でしたでしょうか？

三津加先生がお元気でいらしたときはお弟子さんが30人くらいで夜8時から9時くらいまでお稽古をしていました。廊下にいらした方のお名前を書く用紙があって、一礼して着替えの部屋に行くとき先生がそれを確認なさる。お稽古の時間は私語は一切ナシでした。

三津加先生は、ひとくさりを3回し

かお立ちにならないの。そして、先生自らが「その役になりきる」お稽古でした。プロの方が習いたいのはその踊りの空気、雰囲気、役でしょう？よく言われたのは「先生の左手はどうなっていますか」と聞いては駄目。右の体をみて左手がわからなくちゃいけない。そこがその人その人の能力。

―そこまでは出来ていなきやいけな
いつてことですね

そう。それから踊りだしてすぐ「これからなにか御用があるの？なにかそわそわしているけれど」と聞かれている方もいました。舞台に立つと心を見られる。気持ちのざわつきを見抜く方でした。

―祐天寺の踊りの特色はどんなところでしょうか？

上品で粹。スツキリとした江戸前。ヘンなくさはありませんね。

鳥刺し、山帰り、神田祭りなど素踊りが多かったと思います。

振りつけも結構あると思います。傾城道成寺、豊後道成寺、みのり、早春、都風流、那須の与一、風流舟揃、双六、松風会の方の組踊りだと大和楽の河間（はざま）、雨の四季・・・。



数々の作品が生まれた舞台

三津加先生は9月の敬老の日にカステラとお茶を召し上がって「うまいねえ」とおっしゃって、その翌日に脳梗塞で救急搬送。「病院に来てくださったときはもう反応がなかったからお弟子さんたちも辛かったと思います」と五十鈴さんがおっしゃっていました。

長らく坂東流の礎となった祐天寺のお稽古場は2020年の3月で取り壊しとなります。それまでの間、最後は坂東流の皆様方に出来るだけ使っていただきたいと言っていたきました。

五十鈴さん、貴重なお時間をありがとうございました。

第一回 チャリティーゆかた会のご報告

8月29日(水)日本橋公会堂にて、初となるチャリティーゆかた会を開催しました。

当日は残暑厳しい中、開場前より長い列ができ多くのお客様にご来場賜りました。

全国各地から幅広い層の会員が出演し、全28番、熱気あふれる舞台となり、盛況のうちに閉会することができました。お客様にご協力いただき集まりました募金22万5071円(内会場募金12万5071円)は、「読売光と愛の事業団」に寄付させていただきました。皆様の心温まるお気持ちに感謝申し上げます。

会場の様子



ゆかた会を振り返って

坂東 蘭寿

大学で日舞の勉強をするために上京して3年目、自分が成長できているのか確かめたいと思い、参加させていただきました。

これまでの私にとって、舞台上で一人で踊ることはずっと怖く、早く終わって欲しいと思っていたながら踊った時もありました。しかし今回は、前日から緊張はしたものの、いざ自分の番が来ると、その緊張を楽しみながら踊ることができました。そのような点で少しは成長できたかなと思います。

今回このゆかた会を通して改めて、日本舞踊って楽しいな、もともと上手になりたいと純粋に思うことができました。

今のこの気持ち
持ちを忘れ
ずまた稽古
に励みたい
と思います。



連獅子を踊って

坂東 野里行

今回のチャリティーゆかた会で連獅子を踊らせていただく事になり、稽古にも力が入りました。

講演会のお知らせ

関東甲信支部企画

「大道具のお話し」

日時／4月6日(土)

午後1時より

場所／伝統芸能情報館3階

(東京都千代田区隼町4-1)

講師／渡邊 雅氏

締切／3月11日(月)

参加費／会員 3000円

一般 3500円

申込方法／ハガキ、FAXまたは

メールにて坂東会事務所までお申し込みください。

講師プロフィール

ただし
渡邊 雅 1954年 東京都浅草生まれ

- 1926年 祖父 渡邊益次郎(昭和45年没)が戦前の歌舞伎座修築に宮大工として参加後、長谷川舞台で大道具製作に携わり附打ちを習得
秋葉原の萬世座(長唄小屋)で小屋付きの狂言方等を経て独立、大道具渡辺を開業
- 1965年 11才より益次郎、次男正二(父)、三男(叔父)に大道具方、狂言方、附打ちを師事。
- 2004年より 国立劇場 自主公演(日本舞踊)の狂言方として携わる
- 2008年 父 渡邊正二没後、現大道具渡辺舞台三代目

《2026年には創業100周年の一節を迎える》



踊らせて頂いた『八島』は憧れの曲、不器用な私には課題が幾つもあり、ご覧下さった大先輩方からは貴重なご指摘をいただき、大変勉強になりました。未消化な部分はこれから少しずつ、泉下の師匠に恥ずかしくない踊りに近づけていけたらと思っています。楽屋で仕度している際には、その場力をお貸し下さり、本当にありがとうございました。坂東流の皆様の温かさにより感謝する一日となりました。

チャリティーゆかた会に参加して

坂東 雪丸



これを機に、今後は舞踊の演技性をも大切にして踊りたいと思っています。

最も難しいと感じたのは、一人踊りではないという事です。崖の上から蹴落される場面では実際に経験していない出来事をどの様に客席に届けるか、親子の息を合わせなければ伝わりません。相手をしっかり感じながら踊る事、今まで考えたことのない芸の奥深さに気づきました。

ゆかたで踊る難しさ

坂東 三樂

坂東会初の試みであるチャリティーゆかた会の話伺い、舞台に立てることは最高の経験になるとすぐに参加を決意しました。

私が踊りました『山帰り』は坂東流では大切にされている作品であるために、師匠には細かく指導をしていただきました。

浴衣で踊る事は、衣裳やかつら、化粧や大道具などの力を借りる事ができないため、非常に難しく感じましたが、役になって踊るという本質を学ぶ上ではこの上ない勉強になりました。参加できましたことをとても感謝しております。



この夏は自然災害が多く、私の住む岡山も豪雨に見舞われ、チャリティーの意義を実感しました。



坂東会 100 周年事業

『坂東会 100 周年記念誌』の制作

●タイトルを募集します！

例) 坂東会100周年記念誌『明日へつなぐ』など

●写真をご提供ください！

掲載する昔の写真を探しています。戦前、戦後、昭和～平成初めの坂東会にまつわる貴重な写真(舞踊会、お師匠さんなど)をご提供ください！

タイトル名応募先・写真送付先

郵送、FAX又はE-mailで坂東会事務局まで

2020年に坂東会創立100周年記念舞踊会の開催を予定しております。
詳細は次号に掲載します。

第2回 坂東流チャリティーゆかた会

日時 2019年 8月28日(水)

場所 日本橋公会堂

- 申し込み/FAX・E-mail・ハガキ等で、出演者・演目・電話番号を明記の上、坂東会事務局まで
- 出演条件/坂東流名取であること
- 申込締め切り日/3月11日(月)
(同一演目は2番まで可)
- 1演目/10分以内
- 出演料/1演目¥38,000



引き抜き実演



会場の様子

報 告 !!

関西支部企画

「後見のお話し」を開催しました

講演会に参加して

坂東 弥余伎女

9月19日。京都駅を降りると町はお線香の香りがしました。芸芸上達、書道達への信仰がある東福寺塔頭正覚庵で開催された講習は37名が参加し、間近で道成寺の引き抜き実演するというなんとも贅沢な講演会となりました。

京都は東福寺の塔頭の一つ、正覚庵で講師に利太郎先生をお迎えして開催されました。関西では地震、台風と続いた後で心配しましたが、皆様のお元気なお顔を拝見しホッと致しました。

お話しは、後見の心得から姿勢、黒子との違い、小道具の使い方、後見をされる側の心得など、わかりやすく説明がありました。特別企画では普段見ることのできない娘道成寺の本衣装を着けての玉の引き方の説明から実演と続き、衣装が赤から浅葱に変わった時は感動でございました。最後には、踊り手と後見の細かな打ち合わせが一番



会場となった東福寺塔頭正覚庵

肝要とのことで、締めくくられました。短い時間ではございましたが、楽しくお勉強させていただきました。

講演会を終えて

坂東 利太郎

後見のお話しも二回目となり、今回は関西支部の企画で京都東福寺塔頭正覚庵で行いました。会場はお寺の大広間で、美しいお庭を背にとっても爽やかな気分でお話しが出来ました。司会進行をお願いした公志郎さんは京都らしいソフトな口調で参加者も緊張せずにいられた様です。今回は伊順さんに道明寺の衣装を着ていただき引き抜きの着物や糸の仕組みを説明して実際に娘道明寺を踊り、引き抜きの実演を見せることが出来、近い距離で分かりやすかったです、とても喜んでいただきました。この度の企画で関西支部の方々には色々とお苦勞いただきました。心より御礼申し上げます。



弥余伎女、三男寿、伊順
公志郎、利太郎



台詞研修会

講師に勝友先生をお迎えし、セリフの研修会を行います。
坂東会会員でしたらどなたでも参加できます。
ふるってご参加ください。

日時／平成31年3月24日(日)
午後1時より

場所／浅草見番

参加費／3000円

お申し込み／ハガキ、FAX
またはメールで坂東会事務所まで
(先着80名)

問い合わせ／坂東会事務所

坂東勝友先生にお話を伺ってきました

坂東流は、家元が歌舞伎役者という特徴をもつ、数少ない流派です。せっかく坂東流に身を置いているのだからセリフをきちんと伝えるようにならないければいけません。昔は普段のお稽古でもセリフのあるものをたくさんやっていましたが、今はそれが少なくなってきた様に思います。私の小さい頃は、舞台上でセリフがあるものをしたのは、6歳の時の『落人』の伴内でした。9歳くらいの時には『累』の与右衛門もありました。その当時は、母や、三津之丞先生によく教えていただきました。

また代々の家元様からよく言われていたことは「セリフはまず役で言う」ということです。武士、町人、王朝物、全て言い方が違いますし、女形ならお姫様や町娘など、その役柄によって言い方を変えられることがとても重要だと言われました。私も昔はうまく言う言おうと思っていました、九代目

の家元様に「勝友さん自分に酔ってうまく言っていたって、役になっていなければ何の意味もないんだよ」と言われました。ですので、私はセリフを言う時には役で言うことを一番に心がけています。

踊りにはセリフは付き物です。せっかく踊りがうまく踊れてもセリフが良くないととても残念ですね。セリフが苦手だと思っている方もたくさんいらっしゃるかと思います、役で言えばちゃんと聞こえます。そしてとにかく声を出す。大きな声を出すことから今回の研修会はやってみたいと思います。

※『お祭り』や『将門』『文売り』などを題材にする予定



伝承 坂東流

三代目三津五郎が初演した数多くの歌舞伎舞踊は、200年余り経った今なお、代表的な舞踊演目として踊られています。流祖三代目以来大切に伝承されてきた演目や坂東流ならではの演目について、諸先生方にお話を伺い研究していきます。

第一回

一子相伝の道成寺

監修 坂東 寿子

大和屋の家に伝わる道成寺。流祖三世三津五郎が残した秘伝書の書き出しには「技拙き者は、一子たりとも伝えるべからず」と書かれてあったといいます。数々の奇跡を経て伝承されてきた道成寺を後世に継ぐため平成28年、寿子先生による講習会が開かれました。伝承の経緯、伝承にまつわる逸話、大和屋道成寺の特色について、代々が書き残した書物、芸話、研究資料、寿子先生のお話をもとにまとめました。



三代目三津五郎の『京鹿子娘道成寺』 早稲田大学演劇博物館蔵

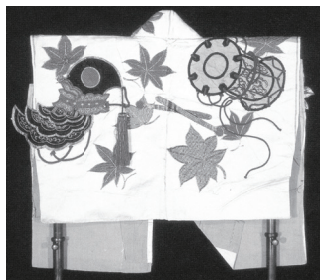
伝承の経緯と逸話 前編

娘道成寺は名女形の初代中村富十郎によって初演されました。

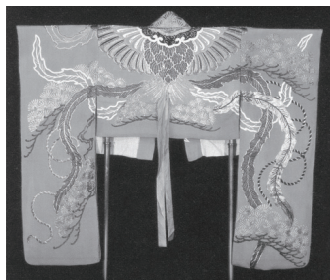
富十郎に私淑していた初代三津五郎は富十郎そのままの道成寺を立役でありながら初めて勤め、成功を収めたと言われています。当時、女形の大切な演目である道成寺を立役が勤めることは許されませんでした。そのような状況の中、興行成績の回復をも担い「一六もの」の賭けに出ます。結果、「三津五郎生涯のほまれ」との大評判。これが立役も道成寺を手掛ける起源となります。

そして初代の実子三代目三津五郎は初代の二十三回忌追善狂言に道成寺を出し、これが自身にとって最初の女形の所作でありながら続演するほどの大当たりを取ります。このころには名優たちがこぞって手掛けるようになり、和実を本領とする三代目にとっては挑戦でありました。結果、初代に続き生涯随一の評判を取ります。初代、三代目ともに覚悟を持って勤めた道成寺。家の芸として重く受け止めた三代目は伝承に心を砕き、秘伝の巻物一巻を残します。

二代目 坂東三津江着用
『京鹿子娘道成寺』さし込み替襦袢
東京国立博物館蔵



白地楓に鳥兜と羯鼓文様襦袢
「羯鼓」で使用



紅地松に羽衣文様襦袢

さて、本号表紙でも紹介しましたが、坂東流の踊りの伝承について語るに欠かせない女師匠、お狂言師の二代目坂東三津江がいます。三津江は三代目のほぼ最後の弟子で、御殿お抱えのお狂言師でした。六代目が亡くなってからは舞踊の一切を依頼され、七代目が家元となるまでの三十数年間、家元同様の立場で坂東流を守った人です。大和屋の道成寺は秘伝の巻物と共に三津江に託されました。

七代目が三津五郎襲名、坂東流家元宣言をした翌年か次の年に三津江は七代目を呼び、七代目の踊りをひと通り見て「さて若旦那、これは坂東流に無かった踊りですが、三代目さんから妾（めかけ）が譲られた永木の道成寺があります。妾も、う幾ら生きるものではありませんから、それを今のうちに若旦那におうつし申します」と言って、行燈を灯し障子を立てきってお腰一枚で2カ月 にわたって道成寺を伝授したといひます。三津江87、88歳、七代目25、26歳の頃です。実は七代目、八十助時分に三津江の役者評に好意が持てず、三津江から足が遠のいていました。三津五郎を襲名し、家元宣言をしたのち、三津江の方から遣いがあり、道成寺は伝承されたのです。七代目は三津江の道成寺を「その振りの、のんどりと、おまかなこと、今の『道成寺』に比べる、はるかに古風な、いい味わいの



七代目三津五郎 昭和16年東劇
平成20年12月歌舞伎筋書より

あるものでありました」と著書に記しています。そして七代目は翌明治41年に初演します。昭和7年の上演に先立つ新聞には「世に出る永木の道成寺伝通院の師匠三津江の恩」として先の伝承のいきさつが載りました。七代目最後の道成寺においては「自らの創意を加えることをせず、伝承された流儀の型を踏んで踊っているという。まことに古典として完成したものであった」と評されます。坂東流の家元は代々歌舞伎役者であることの特色が表れています。



七代目三津五郎 昭和16年東劇
歌舞伎演出叢書第5号より

こうして秘伝の巻物と共に七代目へと受け継がれた道成寺がいかにして八代目へと伝わったのか。八代目から十代目までの「伝承の経緯と逸話」については次号掲載いたします。

青年部活動報告

(平成29年10月～平成30年9月)

第49回(新年会)

平成30年2月10日(土)

場所…酒・喰・sake・cuisine

麴町うお・みっし

お食事を楽しみながら今後の青年部の活動等について自由に話し合い、部員同士の親睦が深められました。

第50回(総会)

平成30年3月4日(日)

場所…帝国ホテル 楓の間

(一)平成29年度青年部決算・活動報告

(二)和 culture はぐくみプロジェクト 平成29年度活動報告

(三)部員発表 テーマ「感動したこと」

(小菊・映佐・蘭寿)

(四)係より

(五)フリートーク、他

総会には38名が参加、今後の活動(講習会と勉強会の参加費設定、講師の先生方の選び方、来年行われる予定の研究発表会等)について活発な意見が出されました。



第51回(講習会)

平成30年6月30日(土)

場所…高輪区民センター 講習室

講師…坂東三千梅

振り付けの講習会を行いました。講師ご自身の経験をもとに、どのように曲と向き合い、振り付けに取り組めば良いのか等、貴重なお話を聞かせて頂きました。今後部員が振り付けを試みる上でのアドバイスもいただきました。



第52回(研修会)

平成30年9月7日(金)、8日(土)

場所…赤坂会館

講師…家元

お家元ご指導による台詞の講習会を行いました。

『花道七三の台詞』として『いな』『流星』より「ご注進、ご注進」を各自録音し、自らの声を客観的に把握する大切さを学びました。さらに、五人一組で『喜撰』の所化の台詞を体験、台詞を「渡す」時に気を付けなければならない「間」等を勉強させていただきました。

舞踊会のお知らせ

・第7回扇菊会

坂東扇菊師50周年記念リサیتال

主 催 坂東扇菊

日 時 11月4日(日)

1 部 正午開演 第7回扇菊会

2 部 午後6時開演 坂東扇菊

会 場 師籍50周年記念リサیتال

入 場 料 浅草公会堂

無料(有料席あり)1部、2部共通

・寛和会・リサیتال

主 催 坂東寛二郎

日 時 12月21日(金)・午後1時開演予定

会 場 国立劇場小劇場

入 場 料 5千円

・扇の会

坂東三津扇十七回忌追善

主 催 坂東勝友

会 場 坂東朋奈

日 時 12月22日(土)・正午開演

入 場 料 国立劇場小劇場

6千円

・橋の会

主 催 5月5日(日)・午後1時開演

日 時 橋の会

会 場 日本橋公会堂

入 場 料 4千円

第55回 坂東流歳末たすけあい チャリティー舞踊会を開催します

組		番	
清元 卯のの	家元	長江 鐘の雨	義太夫
長吟 五の月	坂東 香寿桃	長吟 汐	坂東 楓月
長吟 連獅子	坂東 香寿陽奈	常磐津 朝顔売り	坂東 紫寿昌
長吟 鷺のり	坂東 永紫沙	長吟 俄獅子	坂東 千尋
常磐津 山姥	坂東 鈴楠	長吟 鷺のり	坂東 藤安栄
常磐津 山姥	坂東 喜美野	長吟 鷺のり	坂東 三泰慧
常磐津 山姥	坂東 喜美生	長吟 鷺のり	坂東 佳穂乃
常磐津 山姥	坂東 亜弥	長吟 鷺のり	坂東 加浦
常磐津 山姥	坂東 三知明貴	長吟 鷺のり	坂東 草雲雀
常磐津 山姥	坂東 一十三	長吟 鷺のり	坂東 成千代
常磐津 山姥	坂東 千扇	長吟 鷺のり	坂東 曾乃
常磐津 山姥	坂東 寿菊	常磐津 山姥	坂東 永紫
常磐津 山姥	坂東 波瑠加	常磐津 山姥	坂東 啓彦
常磐津 山姥	坂東 藤彦	常磐津 山姥	坂東 藤彦



日時 12月15日(土)
午前11時開演
場所 浅草公会堂
主催 坂東会
入場料 5,000円

第56回歳末たすけあい 東京チャリティー舞踊会のお知らせ

2019年「坂東流歳末たすけあいチャリティー舞踊会」は、浅草公会堂において12月初旬の開催を予定しております。詳細は坂東会事務所までお問い合わせください。

出演者募集

お申し込みの方法は次の通りです。
※往復ハガキに出演者(芸名)、演目(20分以内)、衣裳付の可否を明記して坂東会事務所まで郵送。
※踊る演目の所要時間を必ず明記してください。
※申し込み受付は平成31年3月1日からとなります。
※演目が重複した場合は先着の方が優先となります。
※演目数が整い次第締め切らせていただきます。

平成31年 試験曲講習会

・之和会(同門会)

主催 坂東三世代
坂東久三之助
坂東華鳳
日時 5月19日(日)・11時開演
会場 日本橋公会堂
入場料 無料

○師範会員の方へ

松の緑
日時 1月20日(日)午後1時より
講師 波瑠加・勝彦・三代智
締切日 1月7日(月)
場所 家元宅

○師範会員の方、これから師範試験を受ける方へ

北州・藤娘
日時 4月28日(日)北州
4月29日(月)・(初)藤娘
両日午後1時より
講師 三津映・三津桜・以津緒
締切日 3月31日(日)
場所 家元宅

●試験を受ける予定の名取さんは取立師匠と一緒に申し込んでください。
申込方法 いずれの講習会もご希望曲を明記し、ハガキ、FAXまたはメールにて坂東会事務所にお申し込みください。

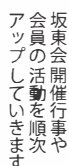
●平成30年9月までの合格者の方々

M-73	三与寿々	田中	美月	三与昭
M-74	慧志乃	工藤	慧子	春志乃
M-75	雪啓	松浦	ひかる	啓
M-76	大夢	望月	大夢	愛
M-77	知賀八	小林	茅	信知寿
M-78	恭緑	山岡	恭子	木綿子
M-79	富美菊	平井	美名	富三輔
M-80	政廣	Chock	Bryan	三津政
M-81	美喜生	御簾納	美紀	喜美生
M-82	優三郎	中西	優汰	三代

●平成30年9月までの合格者の方々

10-584	真祥三	10-877	辰起
10-778	姬菊	M-52	鳳起

9-1871	由梨菜	10-359	弘乃春
10-381	三与風	10-463	映琴
10-584	真祥三		



バンド ヒヤク

平成二十九年	坂東	三和逸
平成三十年	坂東	政力
平成三十年二月二五日	坂東	喜梢
平成三十年四月二七日	坂東	玉千緒
平成三十年四月二八日	坂東	三惠龍
平成三十年五月十七日	坂東	花三穗
平成三十年六月三日	坂東	裕起華
平成三十年七月二八日	坂東	百喜代
平成三十年八月六日	坂東	三津行
平成三十年八月八日	坂東	弘若
平成三十年九月六日	坂東	千鳥
平成三十年九月十一日	坂東	三奈代
平成三十年十月十一日	坂東	諒扇

日時／平成31年3月3日(日)午後5時より
会場／帝国ホテル富士の間

2月10日・6月10日・10月10日

被災された方、そしてお知り合いやご家族に被災された方がいらっしゃる会員皆様に、一日も早く平穏な暮らしが戻りますようお願いしております。

mail : bandokai@crux.ocn.ne.jp